

5分で読める

一からわかる再配置

公共施設の再配置に関連する基本的な情報をお知らせします。



H30.1.24

Vol.46

お疲れ様でした

古谷市長の任期が30日で終わります。古谷市政の下で10年にわたり進めてきた公共施設の再配置は、総務省による公共施設等総合管理計画の策定要請、国交省による都市再生特別措置法の一部改正、各省庁によるガイドラインの策定など、国の政策の参考となりました。また、未だに多くの自治体やその議会が視察に訪れるとともに、研修講師の依頼も後を絶たないなど、日本計画行政学会計画賞の最優秀賞も受賞した本市の公共施設再配置計画が、この分野の発展に果たした功績は、将来にわたり色あせることはないでしょう。

このように先駆的な取り組みが進められてきた中で、民間出身の古谷市長が残してきた印象に残る数々の言葉があります。公共施設マネジメントだけではなく、他の分野でも参考にすべき点があると思いますので紹介しておきます。

胸に刻む

「もっと厳しく書け。各部の言うとおりに書き換えていたら、白書を作る意味がない。」

これは、平成20年から21年にかけて、公共施設白書の初版を作成していたときの言葉です。原稿ができる端から市長室に持って帰り、当時の担当の次に内容をよく読んでいたのが古谷市長でした。現在の公共施設の姿を当たり前のもので思いこむ職員たちに向けて警鐘を鳴らしたかったのです。

「公務員は、公共施設に無頓着すぎる。作ることで目的を果たした気になって、その後どう使われているのかをぜんぜん気にしていない。この状態を見て、もったいないと思わないお前たちの頭の中はどうなっているんだ。」

これは、保健福祉センターへ郵便局を誘致することを検討していたときの言葉です。現在郵便局に貸している場所は、元はこの写真のような状態でした。ここは、「展示ギャラリー」という名前がついていましたが、普段は掲示板が3枚置いてあるだけでした。この状態に対して、この床1平方メートルにかかっている市民の税金は、年額いくらか調べてこいと命じられ、「減価償却費を含めると、19,000円です」と報告したとき、帰ってきた言葉は「バカ者！」でした…

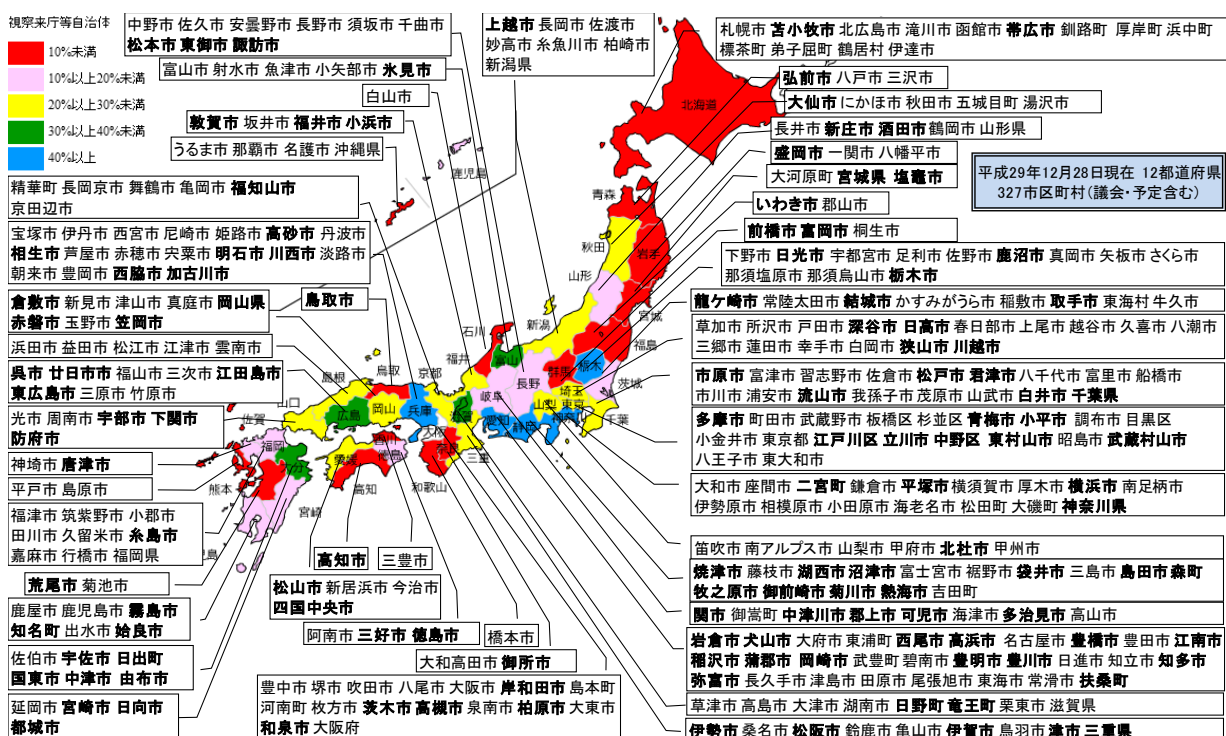


「西地区と上地区では、お祭りのときの「のり巻」の中身が違うのを知っているか。それが地域の伝統とか文化っていうもんなんだよ。地域の境を壊したら、将来そういった違いが薄れていってしまうぞ。」

計画を策定しているとき、効率性ばかりを重視しないで、そうしたものにもしっかり目を向けたものにしてくれという思いを伝えた言葉です。効率性だけを重視すれば、児童数の少ない小学校の統廃合も計画に盛り込まれたかもしれませんが、しかし、計画は、大切なコミュニティの単位である小学校区をしっかりと守っていくものにするのができ、多くの市民の共感を得ました。

「自治体の仕事の種類はみな同じだ。悩む分野もみな同じだ。その悩む分野でそれぞれ名前を知られる自治体が出てくる。そうでない自治体との違いはなんだかわかるか。『やるか』、『やらないか』、ただそれだけの違いだ。公共施設の再配置は、よそもやらなければいけないことを、よそよりも少し早く始めただけなんだよ。」

下の地図は、視察や研修の講師派遣などで、秦野市と直接行き来があった自治体を表したものです。現在327に達していますが、この地図をご覧になって、「秦野市という名前のあまり知られていない自治体の取組みを、こんなに多くの自治体が参考にしたいといってくれる。市長としてこんなうれしいことはない。俺は感激だ。」といった後に聞いた言葉です。



自らを選んでくれた市民に対しても、時に厳しいことを求めなければならない。そんな取組みを進めてきたトップとしての覚悟を見ました。そして、有名になったからといって驕るなよということも伝えたかったのかもしれませんが。

いずれの言葉も深く胸に刻みつけ、今後も秦野市に追いつけ、追い越せとがんばる自治体に恥じることのないように、再配置を進めていきたいと思ひます。